

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0176700391		
法人名	社会福祉法人 稚内木馬館		
事業所名	グループホームひだまりはまなす館 ユニット		
所在地	北海道稚内市はまなす2丁目9 25		
自己評価作成日	平成22年6月30日	評価結果市町村受理日	平成22年10月14日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0176700391&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成22年9月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所には精神障害者を受け入れている事業所(ケアホーム)が併設されており、認知症の症状・状態に応じ利用者を受け入れる体制が整っており、現にそこから入所した利用者がいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スプリンクラー設備の設置や暖房設備を灯油からガスに切り替える等安全対策や二酸化炭素の排出抑制に取り組んでいる2ユニットのグループホームです。また、「ひだまり祭り」で地元の人々との交流や美容協会等のボランティアの受け入れや中学生のインターンシップ、実習生の受け入れが行われホームのもつ機能の地域への還元も行われています。また、併設されている障害者施設やデイサービスに通う地域の人々との交流も実践されています。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の 理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット会議において理念を読み上げ、常に意識してもらえているようにしている。	事業所独自の理念をつくりあげ、ユニット会議で唱和し、理念を共有している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会における民謡松涛会の公演、2か月毎、稚内美容協会美容師が来ての散髪と、常に地域と交流がある。	「ひだまり祭り」で地元の人々との交流や美容協会等のボランティアの受け入れや中学生のインターンシップ、実習生の受け入れが行われ日常的に交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「木馬館からこんにちは」等法人広報を通じて、地域に向けて紹介・理解への努力を行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みの活用までいたっていないが、取り組みたいと思っている	運営推進会議は、市担当者や包括支援センター職員、町内会役員、家族等が参加して開催され防災対策や地域との協力体制について具体的に話し合っている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市とは事ある毎に相談をし、協力していただいている。	市担当者や包括支援センターとは、日常業務を通じて情報交換を行い、連携を深めるように努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議や研修を通じて職員間で勉強している。身体拘束は行っておらず、しないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止について管理者及び職員の認識の共有が行われている。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「外部研修」に参加した職員から他職員へと伝えられる機会を「内部研修」として全体会議やユニット会議で作成し、客観的に注意できるよう取り組んでいる。またそういう事実がないか日々確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を活用している利用者が現在おり、市と後見人と関わりながら支援をしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時・契約更新時に説明し、同意を得ている。また十分な話し合いを持つことで、利用者が入所されてからの家族の心境にもケアを心がけている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に対しては、個々に合わせ聞き出せる機会を設けている。家族に対しては、契約更新時や面会時等に家族が言いやすい雰囲気作りを心がけ、何かあればその都度説明し理解していただいている。いずれにおいても即改善できることは実行している。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の申し出先の掲示や市町村等の相談窓口も掲示している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員一人ひとりの意見を尊重できるように、即実践できる機会、また提案についてはユニット会議等であげてもらい、他職員への連絡や周知が出来るようにしている。	ユニット会議を通じて、意見や要望、提案を聞くよう機会を設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・主任、併設事業所の管理者等との話し合いを設け、職員一人ひとりの努力や実績の報告等を受け、職場全体の士気が高まるように努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	組織力の充実を図るため、法人内外の研修の機会を増やし、人材の育成に取り組んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者との交流はあるとはいえないが、研修等を通じて必要に応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係機関からの情報収集を行い、ユニット会議において話し合いを行っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、家族との話し合いの中で、家族の意向を把握するよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所にあたり本人や家族に必要と思われる支援は出来るだけ組み入れるようにしている。また、併設しているデイサービスセンターの利用も行っている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般における、挨拶や会話・作業やふれあいなどを通じて、一緒に暮らしているという関係を築いている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活・体調・認知症の状態等を家族に報告・連絡するとともに、面会や行事への参加もしていただくなどで、共に利用者を支えていく関係を築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	こちらからの支援はしていないが、友人・知人の面会はある。家族の意向も酌み入れながら対応している。	ホーム主催の行事や地域の行事参加を通じて馴染みの人との交流の機会をもてるように努めている。	年々身体機能が低下し、残存能力が限られていく中で、ご本人が大切にしてきた場所やご家族との「絆」が途切れないように、支援に努めていくことを期待します。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食器の片付けや洗濯物をたたむ等の作業を一緒に行ったり、何かわからないことがあったらお互いに声を掛け合ったりして、利用者同士が助け合う関係を築けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に連絡を取ることはしていないが、外出先等で家族に会ったときには、相談事も含めフォローに努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を本人・家族と相談しながら、少しでも希望に添えるよう努めている。	アセスメントやユニット会議を通じて、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。また、職員間で情報の共有が行われている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、生活歴やサービス利用の経過等の情報を本人や家族、また関係機関から出来るだけ集め、入所後に本人から出た話は常に再度確認しながら把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送り、またその記録を利用し、職員が常に把握出来るようにしている。またユニット会議にて現状の把握や経過、今後の取り組みについて話し合いをしている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には日頃の様子を連絡して、その中から介護計画に反映している。また、ユニット会議で意見や取り組みについて共有し、現状に即した計画をユニット職員全員で作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や思いを反映するようにしている。また、ユニット会議、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の様子は常に日誌に記されており、朝・夕の申し送りやユニット会議の中で話し合い、介護計画に生かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	嚥下障害に対応した服薬の仕方や食事摂取の方法等、個々のニーズに対応したサービスを提供している。またデイサービスセンターと併設しているため、デイサービス利用やお祭り・行事等の参加が出来る。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くには交番や小・中学校があり、お知らせ等何かあれば立ち寄ってくれる。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に通院していたかかりつけ医へは継続して受診を行っている。その他、家族の意向も踏まえて受診している。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、通院等で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	デイサービスセンターの看護職員と連携し、受診等の報告・相談を行っている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師からの話がある際には家族と同行する。医師・家族・事業所が情報を共有出来るよう努めている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時から家族と繰り返し話し合い「出来ること」をはっきり伝え、医師・家族・事業所で情報を共有。職員間でも何度も話し合いを持ち方針を決め、連携をとり支援している。	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、事業所ができることを十分に説明しながら看取りの指針を職員間で共有している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。AEDを設置しており、月に1度点検をしている。応急手当や初期対応の訓練・内部研修を行っている。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を通じて、全職員が熟知できるよう取り組んでいる。	スプリンクラーの設置が完了している。また、消防署の協力を得て、年3回避難訓練を実施し、設備の定期点検も行われている。	スプリンクラー設置による新たな課題や避難誘導方法について再度検討されることを期待します。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、それぞれのプライバシーに配慮した対応を日々心がけている。	身体拘束廃止の研修会を通じて、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思は大切にしている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ本人の希望に添えるよう努力している。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等の希望があるときは一緒に買い物に出掛けている。また化粧や散髪においても、本人の希望に沿って対応している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットで食事は作っていないが、利用者と一緒に準備や後片付けを行っている。	毎日の食後の後片付け等一人ひとりの力に応じた支援が検討されている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの取れた食事を提供している。また、個々に応じて食べ物の大きさや塩分量の調節も行っている。食事摂取量や水分量のチェックも行っている。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	すべての利用者が毎食後行ってはいるが、歯科医の指示のもと、それぞれに応じたケアを行っている。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の能力・体調を考慮し、パターンに応じた支援を行っている。状況に応じて、リハビリパンツから一般下着への切り替えも行っている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬を服用していただく他、牛乳や乳酸菌・水分も多めに摂取していただいたり、散歩等の運動にも参加していただくよう、排便コントロールや便秘の予防に取り組んでいる。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴スケジュールはあらかじめ職員で作成しているが、本人の体調や希望に応じて入浴時間や入浴日を調整し、柔軟に対応している。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。また、本人が希望すれば曜日の変更等が対応可能となっている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しない程度の配慮をしながら、本人の希望に応じて休息・睡眠をしていただいている。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師のアドバイスのもと、職員が薬について把握・支援をし、体調変化等の確認を行っている。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、食器の片付けや洗濯物たたみ等の役割分担が決まっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	受診時の帰りや買い物の際にドライブしたり、天気の良い日には施設前にある児童遊園やその周辺を散歩したりしている。また、家族との関わりの中でドライブや自宅にも行かれている。	宗谷岬へのドライブやふれあい動物園見学、寒流水族館やコンサート観賞、野菜づくりや紅葉見物等戸外に出かけられるよう支援している。今後は、家族の協力が得られるように期待します。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の利用者が小遣い程度のお金を所持されており、飲食物の購入や美容院に行く際に使用されている。			
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の所持金を使い、施設内の公衆電話から家族に連絡することが出来る。手紙を書くことはないが、相手方から手紙や荷物が届いた際には、電話でお礼を言われている。			
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた壁装飾を利用者と一緒に作り飾っている。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、季節毎の飾りつけや行事参加の写真等が掲示され、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールやベランダにソファを設置しており、利用者同士で談話が出来たり、休息が出来ようになっている。また席を自由に移動し、さまざまな共用空間作りも行っている。			
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の希望を取り入れ、その人らしい居室空間づくりをしていただいている。	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等が持ち込まれている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館いたるところには手すりを設置。また遠くからでもわかるようなトイレの表示とトイレまでの案内表示をしている他、利用者それぞれの席には名前を付け、各居室には表札を設置している。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0176700391		
法人名	社会福祉法人 稚内木馬館		
事業所名	グループホームひだまりはまなす館 ユニット		
所在地	北海道稚内市はまなす2丁目9 25		
自己評価作成日	平成22年6月30日	評価結果市町村受理日	平成22年10月14日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0176700391&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成22年9月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所には精神障害者を受け入れている事業所(ケアホーム)が併設されており、認知症の症状・状態に応じ利用者を受け入れる体制が整っており、現にそこから入所した利用者がいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の開 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の 理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット会議において理念を読み上げ、常に意識してもらえるようにしている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会における民謡松涛会の公演、2か月毎、稚内美容協会美容師が来ての散髪と、常に地域と交流がある。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「木馬館からこんにちは」等法人広報を通じて、地域に向けて紹介・理解への努力を行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みの活用までいたっていないが、取り組みたいと思っている		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市とは事ある毎に相談をし、協力していただいている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議や研修を通じて職員間で勉強している。身体拘束は行っておらず、しないケアに取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「外部研修」に参加した職員から他職員へと伝えられる機会を「内部研修」として全体会議やユニット会議で作り、客観的に注意できるように取り組んでいる。またそういう事実がないか日々確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を活用している利用者が現在おり、市と後見人と関わりながら支援をしている。			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時・契約更新時に説明し、同意を得ている。また十分な話し合いを持つことで、利用者が入所されてからの家族の心境にもケアを心がけている。			
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に対しては、個々に合わせ聞き出せる機会を設けている。家族に対しては、契約更新時や面会時等に家族が言いやすい雰囲気作りを心がけ、何かあればその都度説明し理解していただいている。いずれにおいても即改善できることは実行している。			
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員一人ひとりの意見を尊重できるように、即実践できる機会、また提案についてはユニット会議等であげてもらい、他職員への連絡や周知が出来るようにしている。			
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・主任、併設事業所の管理者等との話し合いを設け、職員一人ひとりの努力や実績の報告等を受け、職場全体の士気が高まるように努めている。			
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	組織力の充実を図るため、法人内外の研修の機会を増やし、人材の育成に取り組んでいる。			
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者との交流はあるとはいえないが、研修等を通じて必要に応じている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係機関からの情報収集を行い、ユニット会議において話し合いを行っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、家族との話し合いの中で、家族の意向を把握するよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所にあたり本人や家族に必要と思われる支援は出来るだけ組み入れるようにしている。また、併設しているデイサービスセンターの利用も行っている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般における、挨拶や会話・作業やふれあいなどを通じて、一緒に暮らしているという関係を築いている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活・体調・認知症の状態等を家族に報告・連絡するとともに、面会や行事への参加もしていただくなどで、共に利用者を支えていく関係を築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	こちらからの支援はしていないが、友人・知人の面会はある。家族の意向も酌み入れながら対応している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食器の片付けや洗濯物をたたむ等の作業を一緒に行ったり、何かわからないことがあったらお互いに声を掛け合ったりして、利用者同士が助け合う関係を築けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に連絡を取ることはしていないが、外出先等で家族に会ったときには、相談事も含めフォローに努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を本人・家族と相談しながら、少しでも希望に添えるよう努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、生活歴やサービス利用の経過等の情報を本人や家族、また関係機関から出来るだけ集め、入所後に本人から出た話は常に再度確認しながら把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送り、またその記録を利用し、職員が常に把握出来るようにしている。またユニット会議にて現状の把握や経過、今後の取り組みについて話し合いをしている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には日頃の様子を連絡して、その中から介護計画に反映している。また、ユニット会議で意見や取り組みについて共有し、現状に即した計画をユニット職員全員で作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の様子は常に日誌に記されており、朝・夕の申し送りやユニット会議の中で話し合い、介護計画に生かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	嚙下障害に対応した服薬の仕方や食事摂取の方法等、個々のニーズに対応したサービスを提供している。またデイサービスセンターと併設しているため、デイサービス利用やお祭り・行事等の参加が出来ている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くには交番や小・中学校があり、お知らせ等何かあれば立ち寄ってくれる。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に通院していたかかりつけ医へは継続して受診を行っている。その他、家族の意向も踏まえて受診している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	デイサービスセンターの看護職員と連携し、受診等の報告・相談を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師からの話がある際には家族と同行する。医師・家族・事業所が情報を共有出来るよう努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時から家族と繰り返し話し合い「出来ること」をはっきり伝え、医師・家族・事業所で情報を共有。職員間でも何度も話し合いを持ち方針を決め、連携をとり支援している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。AEDを設置しており、月に1度点検をしている。応急手当や初期対応の訓練・内部研修を行っている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を通じて、全職員が熟知できるよう取り組んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、それぞれのプライバシーに配慮した対応を日々心がけている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思は大切にしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ本人の希望に添えるよう努力している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等の希望があるときは一緒に買い物に出掛けている。また化粧や散髪においても、本人の希望に沿って対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットで食事は作っていないが、利用者と一緒に準備や後片付けを行っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの取れた食事を提供している。また、個々に応じて食べ物の大きさや塩分量の調節も行っている。食事摂取量や水分量のチェックも行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	すべての利用者が毎食後行っていないが、歯科医の指示のもと、それぞれに応じたケアを行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の能力・体調を考慮し、パターンに応じた支援を行っている。状況に応じて、リハビリパンツから一般下着への切り替えも行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬を服用していただく他、牛乳や乳酸菌・水分も多めに摂取していただくたり、散歩等の運動にも参加していただくよう、排便コントロールや便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴スケジュールはあらかじめ職員で作成しているが、本人の体調や希望に応じて入浴時間や入浴日を調整し、柔軟に対応している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しない程度の配慮をしながら、本人の希望に応じて休息・睡眠をしていただいている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師のアドバイスのもと、職員が薬について把握・支援をし、体調変化等の確認を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、食器の片付けや洗濯物たたみ等の役割分担が決まっている。また、全員で体操・歌・ゲームにも取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	受診時の帰りや買い物の際にドライブしたり、天気の良い日には施設前にある児童遊園やその周辺を散歩したりしている。また、家族との関わりの中でドライブや自宅にも行かれている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の利用者が小遣い程度のお金を所持されており、飲食物の購入や美容院に行く際に使用されている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の所持金を使い、施設内の公衆電話から家族に連絡することが出来る。手紙を書くことはないが、相手方から手紙や荷物が届いた際には、電話でお礼を言われている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた壁装飾を利用者と一緒に作り飾っている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールやベランダにソファを設置しており、利用者同士で談話が出来たり、休息が出来るようになっている。また席を自由に移動し、さまざまな共用空間作りも行っている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の希望を取り入れ、その人らしい居室空間づくりをしていただいている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館いたるところには手すりを設置。また遠くからでもわかるようなトイレの表示とトイレまでの案内表示をしている他、利用者それぞれの席には名前を付け、各居室には表札を設置している。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	60	なかなか利用者を戸外の行きたいところへ出かせさせてあげられない。自分の希望が言い出せない利用者以外は、出かける機会が少ない。	利用者の気分転換を図る	外出希望の利用者に対しては、短時間でも外に出ていただく。職員同伴のもと、散歩などで外気を体で感じていただくだけでも満足感は得られる。	12ヶ月
2	66	職員同士の連携がうまく取れていない	職員同士の連携	自分の意見が言いやすくなるような環境作りをする。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。